

# ワンポイント事例

## 5 計算がうまくできない



学校生活の様子

Hさんは、計算が苦手なので、算数の時間になるといつも下を向いています。かけ算の九九は覚えられたのですが、繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算が、なかなかうまくできません。特に繰り下がりのある筆算の計算では、位がずれていつも間違えてしまいます。

実態把握

数の意味や表し方の理解が不十分である。  
10の合成分解でつまづいている。

繰り上がった数や繰り下がった後の数がうまく覚えられない。  
一度覚えてもすぐに忘れてしまう。

見たものを正確にとらえたり、位置関係をとらえたりすることが苦手である。

考えられる支援の手立て

◇マス目のある用紙やマス目の大きいノートを使用し、位取りを分かりやすくする。  
◇フラッシュカードなどを使い、10の合成分解の習熟を図る。



◇計算棒などの具体物を操作したり、計算の手順を言語化したりする。  
◇繰り上がった数、繰り下がった数を必ずメモしながら計算をする仕方を身に付けさせる。  
◇九九の練習では、九九の唱え方の一覧表をつくり、見ることで正確に覚えさせる。

◇マス目のある用紙を使用するか、枠などを引き、位取りをとらえやすくする。  
◇一度にたくさんの計算をさせないなど、問題の量を調整して、集中しやすくする。

その他の支援のポイント

○一度にたくさんの課題を与えて計算への意欲を失わせるのではなく、課題の量を少なくし、「できた」という自信をもたせるようにする。  
○具体物、絵、図などを提示し、計算の意味をとらえることができるようにする。  
○加減乗除の記号の意味を、身近な生活と関連付けながら、分かりやすく理解させる。  
○「～より多い」、「～より少ない」など、計算問題でよく使う言葉の意味を理解させる。



### 【個別的な支援の方法】

- 「束になった10本の棒」、「1本ずつの棒」等を操作しながら、位取りを理解させる。
- 繰り上がり、繰り下がりについては、おはじき、計算棒などの具体物を利用して意味を理解させる。
- 計算の手順を言語化したり、具体物を操作しながら計算したりする練習を身に付くまで繰り返す。
- 位取りのマスや補助線を入れて、数字を書く場所を確認したり、桁がずれないようにしたりする。
- 筆算の計算の中に矢印を入れて計算の手順を確認したり、繰り上がりや繰り下がりの数を書く場所を決めたりして、計算の仕方を理解させる。